



病気と予防のお話し ～JCHO 船橋中央病院から～

第19回 AEDについて

麻酔科 愛波淳子先生

「近くで人が倒れています。AEDを貸してください！」小学4年生の少年にこう言われたら、あなたは何かできますか？

私が「PUSHコース」という、親子で参加できる救命講習会の開催に携わる中で、実際にAEDを使用して救命活動を行った母子のお話しを聞く機会がありました。母子で外食をしていた時に店内にいたお客さんが突然倒れ、会社で救命講習を受けたばかりだった母親が素早く状況判断し胸骨圧迫（心臓マッサージ）、お子さんに「近くの銭湯からAEDを借りてきて」と指示しました。母子の素晴らしい関係で無事救命できてよかったのですが、少年の話の中で私が気になった言葉がありました。

『〇〇（店名）で人が倒れたのでAEDを貸してください！』といったのに、すぐに貸してもらえなかった」「AEDを持って走るのが重くて大変だった」と。

近年、小中学校の学習指導要綱の改定に伴い救命に関する教育が大きく強化され、「胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法などについて実習を通してできるようにする」とされており、子供たちは学校で心肺蘇生を学習、実習してきます。では、大人たちはどうでしょうか？「自動車教習所でやらされたなあ、何年か前に会社で講習受けたけどよく覚えてないなあ、町会の講習会に参加したことあるけど、自信ないなあ」という方も多いのではないのでしょうか？

8月は8月10日（ハートの日）を中心に、全国各地で救命講習会が行われます。また、最近はオンライン講習やe-learningなども可能になってきています。ぜひ機会があれば繰り返し参加していただいて、冒頭の言葉を言われたら「重いから持っていくよ。一緒に手伝うから安心して！」と言ってあげられるといいですね。